

第5期松山市役所温暖化対策実行計画(実施期間：2019～2030年度)

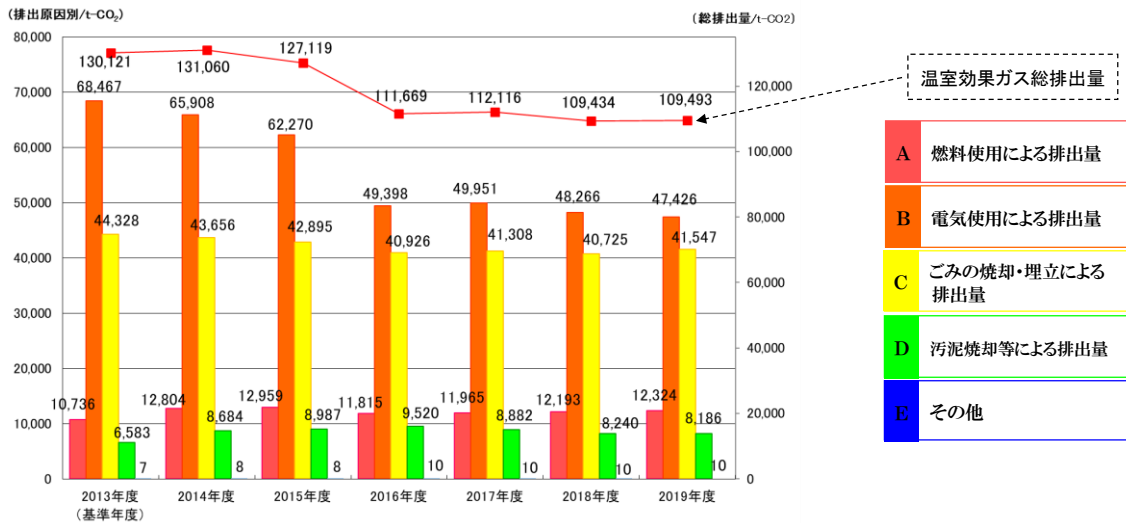
令和元年度実績報告

○温室効果ガス排出量を、基準年度（2013年度）と比較して2030年度に40%削減する目標に対し
2019年度時点で**13.8%**（20,628t-CO₂）を削減

温室効果ガス排出量の内訳と推移

単位 (t-CO ₂)	2013年度 (基準年度)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2030年度 (目標年度)	基準年度比 増減率
① 燃料使用による排出	10,736	12,804	12,959	11,815	11,965	12,193	12,324	10,762	14.8%
② 電気使用による排出	68,467	65,908	62,270	49,398	49,951	48,266	47,426	20,543	-30.7%
③ 一般廃棄物の 焼却による排出	44,328	43,656	42,895	40,926	41,308	40,725	41,547	37,099	-6.3%
④ 下水・汚泥処理 による排出	6,583	8,684	8,987	9,520	8,882	8,240	8,186	8,882	24.4%
⑤ その他	7	8	8	10	10	10	10	10	42.9%
エアコン設置増加分								777	
合計	130,121	131,060	127,119	111,669	112,116	109,434	109,493	78,073	-13.8%

※四捨五入の関係で、
合計が合わない場合
があります。



① 燃料使用による排出

基準年度及び2018年度と比べ、灯油や軽油の使用量は大きく減少したが、市内小中学校へのエアコン導入やクリーンセンターでの都市ガス使用量の増加による、全体として排出が増加している。

② 電気使用による排出

基準年度及び2018年度と比べ、電気使用量について一部の施設では増加したが、省エネ意識の向上や設備の運用改善により全体としては減少したため、排出も大きく減少している。

③ 一般廃棄物焼却による排出

基準年度と比較すると、リサイクルの推進などにより一般廃棄物の焼却量が年々減少し、排出も減少しているが、2018年度と比較すると焼却量及び排出が増加している。

④ 下水・汚泥処理による排出

基準年度及び2018年度と比べ、下水処理量は減少したが、汚泥焼却量が増加し、全体として排出が増加している。

⑤ その他

カーエアコン使用時に排出されるハイドロフルオロカーボン（HFC）について、平成4年以降に登録された公用車の買換等に伴い排出が増加し、基準年度以降増加傾向である。

令和元年度 項目別割合

